

2023年度
2年生 前期シラバス
(看護学科)

実の力を、学ぶ学校



学校法人
日翔学園

高知開成専門学校

<シラバス>

授業科目	情報リテラシー		授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期		担当教員	久保 一夫	実務経験のある教員	○
学習目的	医療現場において、電子カルテなどコンピュータを活用する場面が日常化している。情報機器を正しく活用し、適切に処理できる能力が求められている。本授業では、情報機器の高度化に対応できる素養を身に付けるため、適宜、コンピュータを使った実習により、情報リテラシーを習得する。					
学習目標	1.看護ニーズとしての医療情報に関して、必要な情報を早く正確に入手し、理解し、活用できる基礎能力を習得するため、コンピュータの基本操作から、文書処理・表計算処理ができるようになる。 2.卒業研究に備え、研究発表に対応するためにプレゼンテーションの方法を知り、他者に伝えることができる。					
授業計画	1	Word 書式設定(1) 書式設定(2)				
	2	Word 書式設定(3) ビジュアルコンテンツ(1)				
	3	Word ビジュアルコンテンツ(2) ビジュアルコンテンツ(3)				
	4	Word ビジュアルコンテンツ(4) レポート作成の基本				
	5	Word レポート作成の便利機能(1) レポート作成の便利機能(2)				
	6	Word レポート作成の便利機能(3) ページレイアウトの設定				
	7	Word WordとExcelの連携(1) WordとExcelの連携(2)				
	8	Excel Excel基本操作(1) Excel基本操作(1)				
	9	Excel 数式の設定 オートフィル				
	10	Excel グラフの基本(1) グラフの基本(2)				
	11	Excel ワークシートの操作 関数の基本(1)				
	12	Excel 関数の基本(2) 関数の基本(3)				
	13	Excel グラフの応用(1) グラフの応用(2)				
	14	Excel 表の活用(1) 表の活用(2)				
	15	Excel データベース機能 関数の応用(1)(2)				
	16	試験				
授業方法	講義、実習					
テキスト・参考文献	情報リテラシー パーフェクトブック／ウイネット 情報リテラシー パーフェクトブック課題集／ウイネット その他、適宜資料を配布する					
評価方法	出席状況、試験、授業態度					
備考	内容に関しては授業の進捗状況に応じて変更あり					

<シラバス>

授業科目	統計学		授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期		担当講師	森澤 徹男	実務経験のある教員	—
学習目的	統計的方法とは少数のデータから全体について結論を下すことであると言われている。通常、現象の1回だけの観察で結論を下すことは不確実であり困難である。本講座では少数回の観察から確率を用いて結論を下す考え方と方法を学習する。同時に我々は無意識のうちに身の回りで起こる少数の現象を観察し、確率的に判断して行動していることを理解する。					
学習目標	統計学の基礎である母集団、標本、標本抽出、母数、統計量等の概念、仮説検定や推定の基本的な考え方を理解し、実際の場面でよく使われる統計手法のいくつかを学習する。これは少数のデータから全体について確率的に結論を下すことであり、不確実な状態に結論を下す方法でもある。					
授業計画	1	統計の基礎・・・統計的な考え方(母集団と標本の概念)、統計で用いる用語・記法、尺度の確認				
	2	母集団と標本・・・標本抽出、図表による整理と代表値および統計量の計算法				
	3	標本抽出の実際・・・無作為抽出、母集団と標本の確率分布、連続分布と離散分布				
	4	仮説の検定 1 帰無仮説、対立仮説と両側検定、片側検定の考え方				
	5	仮説の検定 2 等分散性の検定(F 検定)				
	6	仮説の検定 3 平均値の差の検定(分散が等しいときの平均値の差の検定)				
	7	仮説の検定 4 平均値の差の検定(分散が等しくないときの平均値の差の検定(ウエルチの検定))				
	8	仮説の検定 5 対応のあるデータの平均値の差の検定				
	9	仮説の検定 6 一致性の検定(カイ2乗検定)				
	10	仮説の検定 7 独立性の検定(分割表の検定)と残差分析				
	11	推定論 ...点推定と区間推定(母平均の区間推定、母分散の区間推定)				
	12	相関分析 1 Pearsonの積率相関係数とその有意性検定				
	13	相関分析 2 順位相関係数				
	14	相関分析 3 相関比、クラメールの関連係数(分割表の検定と組み合わせての理解)				
	15	分散分析の基礎(データの構造、一元配置分散分析)				
	16	試験				
授業方法	講義と演習					
テキスト・参考文献	『医療・看護のためのやさしい統計学 基礎編』 山田 覚著 東京図書株式会社					
評価方法	試験・課題提出等					
備考	PCまたは電卓を持参のこと。					

<シラバス>

授業科目	カウンセリング理論と技法	授業方法	講義	単位	1
開講時期	2年次前期	担当講師	相原 和雄	実務経験のある教員	—
学習目的	心の仕組みと働きについて理解すると共に、精神的な健康に対するの援助について基礎的な知識や技術・態度を学ぶ。				
学習目標	1. 心の健康の回復や維持・増進に有効な方法を理解し、セルフケア援助としての看護について、基本的な考え方を身につける。 2. カウンセリングを通して、人の心と向き合う力を養い自分自身の理解に努める。				
授 業 計 画	1	オリエンテーション(心理学とは、カウンセリングとは)			
	2	精神分析的カウンセリング ①			
	3	精神分析的カウンセリング ②			
	4	人間中心的カウンセリング ①			
	5	人間中心的カウンセリング ②			
	6	認知行動主義的カウンセリング ①			
	7	認知行動主義的カウンセリング ②			
	8	マイクロカウンセリング ①			
	9	マイクロカウンセリング ②			
	10	グループエンカウンター ①			
	11	グループエンカウンター ②			
	12	精神保健と福祉におけるカウンセリング			
	13	心の健康と医療			
	14	事例検討			
	15	まとめ・試験			
	16				
授業方法	講義、グループワーク				
テキスト・参考文献	講義毎にレジュメを配布				
評価方法	試験、授業態度				
備考	集中講義ですので、理由なき遅刻・欠席・早退のないようにして下さい。				

<シラバス>

授業科目	からだの仕組みと働き	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期	担当講師	松本 佳代	実務経験のある教員	—
学習目的	看護は対象である人の身体の中で起きていることを知り、起きていることから判断する能力が求められる。身体の異常に気づき、異常を知る力を養うため、正常な身体の仕組みと働きを理解する。また、人体の器官・臓器の正常な働きに関する基本的な事項を理解する。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造・機能の科目で修得した知識を基に病態理解ができる。 2. 各器官の解剖生理を整理し、疾患理解につなげる。 3. 各器官の仕組みと働きについて説明できる。 				
授業計画	1	呼吸器系の解剖生理の復習と病期の発達段階、看護の視点			
	2	循環器系の解剖生理の復習と病期の発達段階、看護の視点			
	3	脳神経系の解剖生理の復習と病期の発達段階、看護の視点			
	4	消化器系の解剖生理の復習と病期の発達段階、看護の視点			
	5	腎・泌尿器系の解剖生理の復習と病期の発達段階、看護の視点			
	6	内分泌系の解剖生理の復習と病気の発達段階、看護の視点			
	7	血液系の解剖生理の復習と病期の発達段階、看護の視点			
	8	運動器系の解剖生理の復習と病期の発達段階、看護の視点			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
授業方法	講義、演習				
テキスト・参考文献	任和子:疾患別看護過程、照林社、2021				
評価方法	試験 出席状況 授業態度、課題レポート				
備考	各コマの臓器について授業前に構造と機能について復習をしノートにまとめる。				

<シラバス>

授業科目	病理と診断過程		授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期		担当講師	吾妻 美子	実務経験のある教員	—
学習目的	臓器、組織、細胞の変化としての病変について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解する。					
学習目標	1. 人体に発生した疾病と病態の細胞、組織、臓器の形態的变化について学習し、生体内で行っている異常を科学的に検証する方法を学ぶ。 2. 医療における基礎医学と臨床医学との橋渡しの役割りを担っている病理学の意義を理解し、認識を深める。 3. 看護師として必要な病理学を学ぶことの意味を理解し、説明することができるようになる。					
授 業 計 画	1	病理学で学ぶこと 看護と病理学、病気の原因 2)細胞・組織の障害と修復				
	2	循環障害				
	3	炎症と感染症				
	4	免疫、移植と再生医療 アレルギー、自己免疫疾患				
	5	代謝障害				
	6	先天異常と遺伝子異常				
	7	腫瘍				
	8	まとめ 試験				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
授業方法	講義					
テキスト・参考文献	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進①「病理学」医学書院(電子テキスト)					
評価方法	出席状況、試験					
備考						

<シラバス>

授業科目	薬物療法と看護		授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期		担当講師	佐田 久美子	実務経験のある教員	—
学習目的	的確な薬物療法を行うために必要な基本的な考え方と看護援助を学ぶ。					
学習目標	1.薬理作用を規定する要因(容量と反応など)や薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)を説明できる。 2.薬物の蓄積、耐性、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。 3.薬物の投与方法の違いによる特徴と看護援助を説明できる。 4.小児期、周産期、老年期、臓器障害、精神・心身の障がい時における薬物与薬の注意点と看護援助を説明できる。 5.主な治療薬の作用、機序、適応、有害事象及び看護援助を説明できる。 6.薬物管理の基本的知識と注意事項を説明できる。 7.薬剤の職業性暴露について説明できる。					
授 業 計 画	1	医薬品の取り扱いと薬物治療の基礎 (1)				
	2	医薬品の取り扱いと薬物治療の基礎 (2)				
	3	対症療法薬の基礎知識と看護師の役割 (1)				
	4	対症療法薬の基礎知識と看護師の役割 (2)				
	5	主要疾患の薬物療法の基礎知識と看護師の役割 (1)				
	6	主要疾患の薬物療法の基礎知識と看護師の役割 (2)				
	7	主要疾患の薬物療法の基礎知識と看護師の役割 (3)				
	8	まとめ、試験				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
授業方法	講義、演習					
テキスト・参考文献	系統看護学講座 別巻「臨床薬理学」医学書院					
評価方法	試験 出席状況 授業態度					
備考						

<シラバス>

授業科目	疾病治療論 V		授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期		担当講師	奥田 麻子	実務経験のある教員	—
学習目的	系統別疾患について、臓器系特有の症状をとらえ病態生理、治療、検査について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解する。					
学習目標	看護実践の基礎知識となる小児疾患、精神疾患の病態生理・検査・治療方法が理解できる。					
授 業 計 画	1	感染症1				
	2	感染症2				
	3	川崎病、心疾患				
	4	染色体異常、内分泌疾患				
	5	糖尿病、腎疾患				
	6	悪性疾患、神経疾患				
	7	消化器疾患				
	8	呼吸器疾患				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
	16					
授業方法	講義					
テキスト・参考文献	系統看護学講座 小児臨床看護各論 第13版 医学書院(電子テキスト)					
評価方法	出席状況、筆記試験ほか					
備考	授業計画の詳細は講師より説明あり。					

<シラバス>

授業科目	社会福祉論		授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期		担当講師	岩城 慎人	実務経験のある教員	○
学習目的	人間は「社会的存在」であり「自分自身の人生の主人公として自分らしく生活する」権利を有している。この事を理解し「生活すること」や「本人らしい生活」を支援する基本的視点を理解し、主体的に他職種と協働してゆく姿勢を培う。					
学習目標	①社会福祉の目的・価値や人間理解の基本的視点を理解する。 ②社会福祉に関する専門的知識や社会保障制度、福祉サービスについての知識を得る。 ③生活支援や福祉サービスの提供にあたり、科学的根拠をもとにした人権擁護の視点を培う。					
授業計画	1	第1章 社会保障制度の概念、歴史、制度体系、保障内容				
	2	第1章 社会保障制度概念、歴史、制度体系、保障内容				
	3	第1章 社会福祉法制度の歴史、サービス内容、福祉法と6法、財政、組織と体制				
	4	第2章 我が国の社会保障制度・社会福祉・保健医療の動向				
	5	第3章 医療保障制度、高齢者医療制度、保健医療の仕組み				
	6	第4章 介護保険制度の歴史・概要				
	7	第5章 所得保障・年金保険制度・労働保険制度				
	8	第6章 公的扶助：生活保護制度・低所得者近年の動向と対策				
	9	第7章 社会福祉分野とサービス				
	10	第7章 社会福祉分野とサービス				
	11	第7章 社会福祉分野とサービス				
	12	第8章 社会福祉実践と医療・看護				
	13	第8章 社会福祉実践と医療・看護				
	14	第8章 社会福祉の歴史				
	15	まとめ、試験				
	16	試験				
授業方法	講義					
テキスト・参考文献	健康支援と社会保障制度(3) 社会保障・社会福祉 医学書院(電子テキスト)					
評価方法	試験 提出物 出席状況					
備考						

<シラバス>

授業科目	看護理論	授業方法	講義・演習	単位	1単位
開講時期	2年次前期	担当教員	佐田 久美子	実務経験のある教員	○
学習目的	看護のみかた、考え方の基盤として、代表的な看護理論家の理論内容について学習し、看護実践への活用方法を理解する。				
学習目標	看護の枠組みと方向性を導く主要な看護理論や患者理解のための看護理論など、さまざまな看護理論をグループ学習を活用しながら理解を深め、看護独自の機能を見出し、看護実践と理論を結びつける基礎的な力を養うことができる。 自らの看護に対する見方・考え方を自分の好む理論家で表現する。				
授 業 計 画	1	看護理論についての基本的な理解(1)			
	2	看護理論についての基本的な理解(2)			
	3	働きかけ論的な看護理論「バージニア・ヘンダーソン」			
	4	働きかけ論的な看護理論「バージニア・ヘンダーソン」			
	5	働きかけ論的な看護理論「オレム」			
	6	働きかけ論的な看護理論「オレム」			
	7	人間関係論的な看護理論「トラベルビー」			
	8	人間関係論的な看護理論「トラベルビー」			
	9	グループワーク看護理論家の理論を選択、項目に沿ってまとめる(レポート、スライド)			
	10	グループワーク看護理論家の理論を選択、項目に沿ってまとめる(レポート、スライド)			
	11	グループワーク看護理論家の理論を選択、項目に沿ってまとめる(レポート、スライド)			
	12	グループワーク看護理論家の理論を選択、項目に沿ってまとめる(レポート、スライド)			
	13	グループワークでの成果を発表			
	14	グループワークでの成果を発表			
	15	グループワークでの成果を発表			
	16				
授業方法	講義、演習				
テキスト・参考文献	黒田裕子:やさしく学ぶ看護理論、日総研出版				
評価方法	出席状況、授業態度、演習(GWや発表時の参加状況)、レポート評価				
備考					

<シラバス>

授業科目	フィジカルアセスメント	授業方法	講義・演習	単位	1単位	
開講時期	2年次前期	担当教員	武政 あゆみ	実務経験のある教員	○	
学習目的	フィジカルアセスメントの意義について理解し、対象の健康状態を総合的に判断するための知識・技術を学ぶ。					
学習目標	1. 看護実践におけるフィジカルアセスメントの意義、目的について理解できる 2. フィジカルアセスメントに必要な技術の方法と留意点を述べることができる 3. 統計的なフィジカルアセスメントの目的・根拠を述べるができる 4. 系統的なフィジカルアセスメントの観察項目、方法、留意点を述べることができ、一部実施することができる 5. フィジカルアセスメントの正常・異常が判断できる					
授 業 計 画	1	フィジカルアセスメントの目的・意義/フィジカルアセスメントに必要な技術				
	2	バイタルサインの観察とアセスメント				
	3	呼吸器系のフィジカルアセスメント				
	4	循環器系のフィジカルアセスメント			<演習>	
	5	呼吸器系のフィジカルアセスメント				
	6	循環器系のフィジカルアセスメント			<演習>	
	7	消化器系のフィジカルアセスメント				
	8	消化器系のフィジカルアセスメント			<演習>	
	9	頭部・神経系のフィジカルアセスメント				
	10	頭部・神経系のフィジカルアセスメント			<演習>	
	11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント				
	12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント			<演習>	
	13	臨床推論1				
	14	臨床推論2				
	15	試験				
授業方法	講義・演習、					
テキスト・参考文献	基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院(電子テキスト) 守田美奈子:看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス:インターメディカ					
評価方法	出席・演習状況、ワークシート、筆記試験					
備考						

<シラバス>

授業科目	地域・在宅看護援助論 I	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期	担当教員	松本 佳代	実務経験のある教員	○
学習目的	地域・在宅看護の対象者と提供方法について理解する。				
学習目標	1. 地域・在宅看護の必要性を理解知る。 2. 地域・在宅で療養している対象者とその家族の特徴を説明できる。 3. 地域・在宅看護の目的や役割、機能が理解できる。				
授 業 計 画	1	地域・在宅看護の対象者と看護の役割(療養者の特徴とその支援、安全管理含む)			
	2	地域・在宅看護の対象者と看護の役割(家族、介護者としての家族の特徴とその支援)			
	3	地域・在宅看護の対象者と看護の役割(介護負担とレスパイトケア)			
	4	訪問看護制度の理解(訪問看護サービスの仕組みと提供)			
	5	訪問看護制度の理解(利用開始までの流れ、内容・展開・管理・経営など)			
	6	ケアマネジメント・ケースマネジメントの考え方とプロセス			
	7	在宅看護における看護師の役割と目的			
	8	在宅看護のあり方と今後の課題			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
授業方法	講義、演習、				
テキスト・参考文献	系統看護学講座:「地域・在宅看護の基盤」、医学書院 (電子テキスト)				
評価方法	出席状況、試験、授業態度				
備考					

<シラバス>

授業科目	地域・在宅看護援助技術Ⅰ	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期	担当教員	山本 佳子	実務経験のある教員	○
学習目的	医療管理を必要とする在宅看護技術を理解し、学内演習で実施できる。				
学習目標	1. 在宅看護の実際を理解できる。 2. 在宅療養者の状態・状況に応じた医療管理を必要とする在宅看護の基礎的技術を身につける。				
授 業 計 画	1	医療管理を必要とする在宅看護技術(経管栄養法、胃ろう、中心静脈法)			
	2	医療管理を必要とする在宅看護技術(膀胱留置カテーテル)			
	3	医療管理を必要とする在宅看護技術(ストーマケア)			
	4	医療管理を必要とする在宅看護技術(酸素療法、非侵襲的陽圧換気、)			
	5	医療管理を必要とする在宅看護技術(人工呼吸器)			
	6	医療管理を必要とする在宅看護技術(服薬管理、麻薬管理、輸液管理)			
	7	医療管理を必要とする在宅看護後術(褥瘡管理、処置)			
	8	医療管理を必要とする在宅看護技術(疼痛緩和)			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
授業方法	講義 グループワーク 小テスト				
テキスト・参考文献	系統看護学講座:「地域・在宅看護の基盤」、医学書院 (電子テキスト) 「地域・在宅看護の実践」、医学書院 (電子テキスト)				
評価方法	出席状況 試験 授業態度				
備考					

<シラバス>

授業科目	急性期看護論		授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期		担当講師	大沢 たか子	実務経験のある教員	○
学習目的	急性期・クリティカルにある対象者の特徴と身体的・心理的变化を理解し、心身ともにストレスフルな状態を理解するための基礎となる考えや理論を理解する。 また、患者や家族が危機を脱していけるような看護の役割と方法を学ぶ。					
学習目標	1. 急性期にある対象の特徴や身体の恒常を維持する機構及び生体侵襲を受けた時の生体反応が理解できる 2. クリティカルな特殊環境におかれた対象者の看護の特殊性が理解できる。 3. クリティカルケア看護における生体侵襲理論及び看護援助に必要な理論が理解できる。 4. 集中治療室の特殊性と人工呼吸器患者の看護が理解できる。 5. クリティカル状態にある患者の呼吸機能・循環機能・意識・体液・栄養状態の機能障害に向けた看護が理解できる。					
授 業 計 画	1	急性期・クリティカルケア看護の特殊性と看護の対象及び看護師の役割				
	2	急性期・クリティカル患者の身体理解と生体反応				
	3	課題学習				
	4	クリティカルケア看護の基盤となる理論				
	5	クリティカルケア看護の基盤となる理論と概念				
	6	クリティカルケア患者の安楽を阻害する疼痛のメカニズムと術後疼痛に対する援助				
	7	クリティカルケア患者の心理状態を理解する枠組みと看護援助				
	8	集中治療室看護の特殊性と人工呼吸器装着患者の看護				
	9	クリティカルな状態にある患者の呼吸機能障害と看護				
	10	クリティカルな状態にある患者の循環機能障害と看護				
	11	クリティカルな状態にある患者の意識障害と看護				
	12	クリティカルな状態にある患者の水・電解質障害と看護				
	13	クリティカルな状態にある患者の栄養状態と管理				
	14	安楽な体位と呼吸器合併症予防に向けた看護援助（講義と演習）				
	15	まとめ・試験				
授業方法	講義、ビデオ学習、演習					
テキスト・参考文献	「臨床外科看護総論」「救急看護学」「臨床看護学総論」: 医学書院(電子テキスト)					
評価方法	試験、課題レポート、授業態度					
備考	授業資料は事前学習して授業に臨むこと					

<シラバス>

授業科目	回復期看護論	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期	担当教員	松本 佳代	実務経験のある教員	○
学習目的	リハビリテーションの発展過程から現在の「障害者」「高齢者」の状況を学ぶ。障害を持つ人や高齢者が住み慣れた地域で生活していくにはどのような援助・支援が望ましいのか、人・環境・社会等の側面から「リハビリテーションの本来の意味」である「全人的復権」について学ぶ。				
学習目標	1. リハビリテーション看護の考え方が理解できる。 2. リハビリテーション倫理と法的問題が理解できる。 3. 回復期にある人の特徴が理解できる。 4. 回復期のあるリハビリテーション対象者の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、身体機能の回復状態をアセスメントでき、対象者が持つ機能が最大限に発揮できる看護援助を考えることができる。				
授業計画	1	リハビリテーション看護の概念と目的、障害者の実態			
	2	リハビリテーションにおける倫理と法的問題、障害のある患者のQOL向上を目指す施策			
	3	リハビリテーションを必要としている患者の身体的・心理的・社会的特徴と背景			
	4	障害のある患者の家族の特徴と理解			
	5	リハビリテーション看護とチームアプローチ			
	6	経過別リハビリテーション(急性期、回復期、維持期)の考え方			
	7	その他(グループワーク、課題レポート)			
	8	その他(グループワーク、課題レポート)			
	9	試験			
	授業方法	講義、グループワーク			
テキスト・参考文献	系統看護学講座:「リハビリテーション看護」、医学書院				
評価方法	出席状況、試験(筆記:80%)、課題レポート(20%)とし、総合的に評価する。 ※課題レポートは提出期限が過ぎることに日に1点ずつ減点する。講義態度も違反した場合は1点ずつ減点する。				
備考	講義を受けた「急性期看護」や「慢性期看護」を各自がしっかり復習し、各コマごとに内容に関連させて学習を進めて下さい。				

<シラバス>

授業科目	精神看護学総論		授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期		担当教員	松永 智香	実務経験のある教員	○
学習目的	精神看護の概要を学ぶ。 精神看護の目的、精神保健・医療・福祉・看護の歴史と現状・課題、精神看護の対象と特徴、基本的な看護技術と方法、患者－看護師関係の形成・発展および自己洞察の重要性が理解できる。					
学習目標	1.精神の健康について理解できる 2.精神看護の目的が理解できる 3.精神保健・医療・福祉・看護の歴史と現状・課題が理解できる(処遇・人権問題を含む) 4.人の心のしくみと発達理論が理解できる					
授 業 計 画	1	精神看護、精神保健の考え方				
	2	精神の健康、ストレスの健康の定義				
	3	心身の健康とストレス、回復を支える力				
	4	心の諸活動と心のケア、対人関係論				
	5	心のしくみと発達理論(精神力動理論)				
	6	心のしくみと発達理論(エリクソンの発達理論)				
	7	心のしくみと発達理論(ボウルビーの愛着理論)				
	8	集団という関係のなかの個人について(システムとしての人間関係)				
	9	集団という関係のなかの個人について(家族システム)				
	10	精神疾患の特徴、精神患者の体験と看護				
	11	精神科治療の特徴				
	12	社会のなかの精神障害(世界と日本の精神医療の流れ、文化と社会学)				
	13	社会のなかの精神障害(精神障害と法制度)				
	14	社会のなかの精神障害(精神保健医療福祉の動向)				
	15	まとめ、試験				
授業方法	講義・演習					
テキスト・参考文献	精神看護学 I 精神看護の基礎 : 医学書院(電子テキスト)					
評価方法	試験、課題レポート、出席状況					
備考						

<シラバス>

授業科目	老年看護学方法論 I	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期	担当教員	山本 佳子	実務経験のある教員	○
学習目的	老年期の健康について考え、加齢による身体的、心理的・社会的変化を理解し、治療を必要とする老年者への看護や老年者の生活に焦点を当てた看護の方法を考え、学ぶ。				
学習目標	1. 老年者の身体的、社会的、心理的变化を知り、健康な生活を送るための援助を考えることができる。 2. 治療を必要とする老年者の看護を理解できる。 3. 老年者特有の症状と看護について理解する。				
授業計画	1	高齢者の加齢に伴う身体機能変化と治療、ケアの必要性			
	2	高齢者の加齢に伴う身体機能変化と治療、ケアの必要性			
	3	加齢者の加齢に伴う変化と治療、ケアと必要性(高齢者体験演習)			
	4	高齢者の加齢に伴う変化と治療、ケアの必要性(高齢者体験演習)			
	5	老年症候群の特徴と症候へのケア			
	6	認知機能障害のある高齢者のケア（認知症：病態・治療・症状及び生活障害、 家族支援、ケアシステム）			
	7	認知機能障害のある高齢者のケア（認知症患者とのコミュニケーション、 認知機能低下予防）			
	8	皮膚・排泄障害のある高齢者のケア(皮膚・排泄障害のアセスメント)			
	9	呼吸器障害のある高齢者の生活機能を支えるケア(誤嚥性肺炎・COPDなど) (呼吸状態のアセスメントと看護)			
	10	循環器障害のある高齢者の生活機能を支えるケア(心不全など) (循環状態のアセスメントと看護)			
	11	脳神経障害のある高齢者の生活機能を支えるケア(脳卒中・パーキンソンなど) (歩行・移動を支える看護：基本動作・廃用症候・転倒のアセスメント)			
	12	筋・骨格系障害のある高齢者の生活機能を支えるケア(大腿骨骨折など) (活動と休息を支える看護：睡眠・覚醒のアセスメント)			
	13	高齢者の食生活を支えるケア(摂食・嚥下能力・栄養のアセスメントと口腔ケア)			
	14	高齢者のエンドオブライフケア・意思決定支援			
	15	まとめ・振り返り			
授業方法	基本的には講義形式だが、グループワークや演習を織り交ぜながら行う				
テキスト・参考文献	新体系看護学講座「老年看護学」「老年看護病態・疾病論」：医学書院電子テキスト				
評価方法	出席状況、レポート、試験、授業への参加状況				
備考					

<シラバス>

授業科目	小児看護学方法論 I	授業方法	講義・演習	単位	1単位
開講時期	2年次前期	担当教員	戸梶 美香	実務経験のある教員	○
学習目的	小児の成長発達段階の特徴と健全な成長・発達を理解し、発達に適した生活ができるための方法を理解する				
学習目標	1.小児の成長発達過程と発達課題が理解できる 2.小児期における栄養の役割と特徴が理解できる 3.成長発達段階に応じた日常生活と生活指導について理解できる 4.身体測定やバイタルサインの測定方法ができる 5.小児の遊びの意義と特徴が理解できる 6.保育の意義と役割を知りこれからのあり方を考えることができる				
授 業 計 画	1	小児の成長発達過程と発達課題について(定義・発達的一般原則・影響因子)			
	2	小児の成長発達過程と発達課題について(定義・発達的一般原則・影響因子)			
	3	小児期における栄養の役割と特徴について			
	4	小児の発達段階に応じた世話と健康増進について(基本的な生活習慣としつけの方法)			
	5	小児の発達段階に応じた世話と健康増進について(基本的な生活習慣としつけの方法)			
	6	身体計測・バイタルサイン測定の方法について(演習)			
	7	身体計測・バイタルサイン測定の方法について(演習)			
	8	身体的アセスメント			
	9	身体的アセスメント			
	10	小児の遊びと意義の特徴について			
	11	プレパレーション(グループ)			
	12	プレパレーション(グループ)			
	13	グループ発表			
	14	保育の意義と役割について			
	15	まとめ、試験			
授業方法	講義、演習				
テキスト・参考文献	系統看護学講座「小児看護学概論/小児臨床看護総論」第13版 医学書院				
評価方法	出席状況、筆記試験、演習・発表態度				
備考	内容に関しては授業の進捗状況に応じて変更あり				

<シラバス>

授業科目	母性看護学方法論 I	授業方法	講義	単位	1単位
開講時期	2年次前期	担当講師	北村 明子	実務経験のある教員	—
学習目的	母性看護の特性を理解し、妊娠・分娩・産褥期にある対象および新生児に対する看護実践に必要な知識を身に付ける				
学習目標	妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的特徴と健康問題について理解し、健康の保持促進のための看護が理解できる。母性看護に必要な看護技術が理解できる。 女性のライフサイクルにおける性と生殖の意義について理解できる。母性を取り巻く社会の現状と課題を理解し、母子への支援や母子を取り巻く保健制度や関係法規について理解できる。地域において母子を継続して援助するための母子保健医療チームにおける看護師の役割が理解できる。				
授 業 計 画	1	妊娠期の身体的特徴とケア			
	2	妊娠期の心理社会的特徴とケア、妊婦と家族への看護、マイナートラブル			
	3	妊娠期のアセスメント			
	4	分娩期の身体的特徴とケア			
	5	分娩の経過、産婦と家族の看護			
	6	分娩期のアセスメント、胎児モニタリング			
	7	妊婦、産婦に対する看護技術			
	8	産褥期の身体的特徴とケア、マイナートラブル			
	9	産褥期の心理社会的特徴、褥婦と家族への看護、ソーシャルサポート			
	10	産褥期のアセスメント			
	11	新生児の身体的特徴と看護			
	12	新生児の生理的変化と看護			
	13	出生直後から退院までの観察の視点			
	14	新生児のアセスメント			
	15	褥婦・新生児に対する看護技術			
	16	試験			
授業方法	講義				
テキスト・参考文献	系統看護学講座 母性看護学2 母性看護学各論:医学書院(電子テキスト)				
備考	母性看護学は、妊産褥婦および新生児への看護活動、思春期・更年期など女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防のみならず、人間のライフサイクルにおける、母性・父性の特徴をとらえ、その機能が健全に発揮できるように人間の一生を通して性という側面から対象と家族を支援する看護である。人間関係形成の基盤となる母子関係・家族関係は、妊娠から産褥期に大きく変化する。またこの時期の母子関係が児の人格形成に大きな影響を与える。しかし現代の学生は生活経験が少ないことから妊婦褥婦・新生児のイメージがつかみにくいため、実感を持って理解することができるように指導する。学習を通して、生命が誕生することの素晴らしさや自分の誕生を振り返ることでの親に対する思い、自己の母性・父性観、今後築くであろう家族への前向きな思いなど命の連続性について考えるきっかけとできるよう、学生と共に学び考えていく。また対象のプライバシーに関する情報を多数得るために守秘義務を厳守し、妊産褥婦の観察・援助の場で羞恥心には十分配慮できるようにさせる。				

<シラバス>

授業科目	医療安全	授業方法	講義・演習	単位	1単位
開講時期	2年次前期	担当教員	戸梶 美香	実務経験のある教員	○
学習目的	医療安全の基礎的知識を学び、安全の重要性を理解する。医療事故の動向、発生要因の理解とインシデントの分析方法を学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における医療安全の考え方について理解する。 2. 医療事故の構造と要因について理解し、医療事故防止の考え方を理解する。 3. 実習における医療安全について理解する。 4. 組織としての医療安全対策について理解する。 				
授 業 計 画	1	医療安全の歴史と考え方			
	2	医療安全の歴史と看護を取り巻く現状			
	3	インシデント・アクシデントの理解			
	4	インシデント・アクシデントの分析方法			
	5	インシデント・アクシデントの分析方法			
	6	看護の現場で起こりうる医療事故			
	7	KYT演習			
	8	実習中における医療安全について			
授業方法	講義・演習				
テキスト・参考文献	系統看護学講座:「医療安全」、医学書院（電子テキスト）				
評価方法	出席、授業態度、試験、レポート				
備考					